

## 【Ⅱ】造形カリキュラム作成の手順

以上に述べた岩屋保育園の基本的な考え方を土台に、クラスごとのカリキュラムを作成するときには、以下の資料を参考にしてください。ここに示されたことがらがバランスよく取り上げられていることが留意点のひとつですが、もっとも留意したいことは、いつでもどのような造形活動を保育に取り上げるかは、あくまでも予定です。その予定にしたがって準備をすれば、それは子どものゆたかな表現を導き出す装置としてはたりますが、カリキュラムとは、そうした装置の準備と、装置をはたらかせた保育の展開のドキュメンテーションによって成立します。ですから、作品をまえに活動を振り返ることが重要になります。

### 1. 造形のカテゴリー

#### (1) 描画

- 絵の具
- クレパス
- コンテ
- 絵の具とクレパスの併用
- フィンガーペインティング
- 落書き遊び

#### (2) 版画

- フロッタージュ（こすりだし）
- スタンピング
- デカルコマニー（うつしえ）
- マーブリング
- スチレン版画
- 紙版画
- 銅版画

#### (3) 色彩構成

- 色紙による
- 絵の具による

#### (4) 粘土

- 油粘土
- 紙粘土
- 土粘土（陶芸）
- 小麦粉粘土

#### (5) 個人制作

- 紙工作
- 木工作
- 廃物工作

- スチロール工作
- おもちゃ作り
- (5) 共同製作
  - 制作
  - 描画
- (6) 造形的遊び
  - 色水遊び
  - 混色遊び
  - どろんこ遊び
  - ボディペインティング
  - 砂遊び
  - 染め紙遊び
- (7) 基礎的技術の習得
  - 描画用具の使い方
  - のり付け
  - はさみ
  - イーゼル
- (8) 発表
  - 作品展
  - 展示方法の工夫
  - パンフレットの作成
  - 案内
- (9) 描画の内容的分類
  - 自由画
  - 人物画
  - 写生
  - 経験画
  - 空想画
  - お話の絵
  - 音楽の絵
  - 立体への着色
  - 粘土への着色
  - 模様
  - 染色

## 2. 素材と用具

### (1) 道具

筆 (4号、10号、14号、16号、20号)

竹ペン、はさみ、バケツ、小刀、金槌、釘、コンパス、錐、ペンチ、ローラー、ばれ

ん、パレット、霧吹き、スポンジ、のり、セロテープ、ガムテープ、ビニールテープ、両面テープ、ボンド

(2) 紙

白画用紙、色画用紙、和紙、トレーシングペーパー、セロハン紙、半紙、折り紙、模造紙、段ボール紙、厚紙、クレープ紙

(3) その他 (あると便利なもの)

モデリングメジウム、ワセリン、水性ニス、油性ニス、バインダー、ホットメルト接着剤、ガンカッター、発泡スチロール切断機

(3) 描画

絵の具、染料、クレパス、コンテ、ポスターカラー、マジック、チョーク、鉛筆、色鉛筆

(4) 版画

トレーシングペーパー、スチレン版、マーブリング液、カラー墨インキ、スタンプ、紙

(5) 粘土

油粘土、土粘土、紙粘土、小麦粉粘土、粘土板、竹べら、麵棒

(6) 個人制作

紙、木片、貝殻、石、砂、発泡スチロール、セロハン紙、モール、王冠、ビーズ、毛糸、竹籤、凧糸、釘、ボタン、スパンコール、リボン、ストロー、麻紐、釣り糸、布、割り箸、爪楊枝、竹串、ゴムひも、障子紙、ねじ

### 3. クラス別カリキュラム作成の手順

(カリキュラム作成上の留意事項)

(1) 指導計画は、一人ひとりのために作成する個別指導計画とする。

(2) **個別指導計画**には、次の2点を書く。

① 一人ひとりの子どもの“いま・ここ”を、保育者がどのようなイメージで捉えているか。

② 一人ひとりの子どもの未来に向けたあらまほしき姿を、どのように描いているか。

(3) クラスの指導計画は、**カリキュラム**とする。カリキュラムは保育内容ごとに必要に応じて作成する。

(4) カリキュラムとは、保育の内容ごとに保育者が準備する**活動の装置**と、子どもと保育者がその装置をはたらかせて展開した保育の過程の**ドキュメンテーション**である。よって、カリキュラムの装置は、よりゆたかな保育が導きだされるように保育者によって日々作り込まなければならない。また、保育の展開の過程は一回性のものである。

(参考)

- (1) 個別指導計画は、一人ひとりの子どもの「そのらしさ、その子なり」を書くので、具体的な保育内容にいちいち言及するものではない。
- (2) カリキュラムは、カリキュラムを必要とする保育について作成する。カリキュラムの装置部分については作り込むことが大切なので、前年度のものをベースにすることが望ましい。

(クラス別造形カリキュラム作成の手順)

しいのみ・くりのみ・さくらんぼの造形カリキュラム

## “先生みてみて、私が描いたんやで、僕が作ったんやで”

(作業手順)

1. 「造形カリキュラム編成の基本的な考え方」を参考に、年間に取り上げたい造形活動を抽出する。抽出に際しては活動のバランスに留意すること。
  - ① 平面と立体に分ける。
  - ② 一人ひとりの活動と、群れの活動に分ける。
  - ③ 平面は描画が中心になるが、用具、素材、テーマに配慮して、クラスの子どもたちが楽しめるように活動内容を選択する。
  - ④ 立体は工作が中心となるが、平面以上に用具、素材、テーマに配慮して工夫する。
  - ⑤ 最終的な4週ごとの活動の配列には、季節、行事、子どもの様子を反映し、ドキュメンテーションの結果に応じて、柔軟に作り直す。
2. 取り上げたい活動を期ごと、4週ごとに並べる。
3. 保育を実施する。
4. 保育の実施後はドキュメンテーションをとり、4週ごとのカリキュラムに反映する。
5. 活動量の目安
  - ① 一人ひとりの描画10～15枚
  - ② 一人のひとりの工作3～7点
  - ③ 群れの描画3～7点
  - ④ 群れの製作3～7点
  - ⑤ 製作のための小さな遊び場（別掲）を置く
6. 製作のための小さな遊び場も、子どもの造形活動の装置である。準備には次のような点に留意する。
  - ① 製作コーナーは、保育室のいずれかの壁に接していて、その面の一部を保育者の定位置とする。
  - ② 作業台は、クラスの総人数の5分の1以上の子どもたちが参加できる広さにする。
  - ③ 用具及び素材は、安全に配慮しながらも、できるだけ多様なものを用意する。

- ④ 製作のヒントとなるような作品や技法を保育者が手作りしたり、子どもと一緒に取り組むことで、子どもに伝える。子どもはそれを伝承する。
- ⑤ 必要に応じてドキュメンテーションをとる。

(まとめ)

タイトルをよく読んで欲しい。「造形活動を楽しむ」というのが一般的な表現であるが、“先生みてみて、私が描いたんやで、僕が作ったんやで”は、まず子どもが出来上がった作品を先生に見せたがること、見て欲しいという気持ちは、その活動が楽しかったこと、自分でもうまくできたと思っていること、先生に褒めてもらうことで自分を自分で好きになり、自分に自信をもちたいと思っていることのあらわれである。

描いたり作ったりすることはおもしろく、楽しい。描いたり作ったりすることは感じることであり、考えることであり、工夫することである。感じたことの結果、考えたことの結果、工夫したことの結果が作品となるのであるから、子どもの作品は子どもの考えをまとめたものである。

造形活動とは、描いたり作ったりに没頭することで、自分の考えをまとめることになる。我を忘れる時間を過ごすことは、自分の内奥性と出遭うことになる。そこに“意欲の水瓶”は形成されてゆく。

## しろ1・あかの造形カリキュラム

### “先生、いっしょに描う、いっしょに作ろう”

(作業手順)

1. 「造形カリキュラム編成の基本的な考え方」を参考に、年間に取り上げたい造形活動を抽出する。抽出に際しては活動のバランスに留意すること。
  - ① 平面と立体に分ける。
  - ② 一人ひとりの活動と、群れの活動に分ける。
  - ③ 平面は描画が中心になるが、用具、素材、テーマに配慮して、クラスの子どもたちが楽しめるように活動内容を選択する。
  - ④ 立体は工作が中心となるが、平面以上に用具、素材、テーマに配慮して工夫する。
  - ⑤ 最終的な4週ごとの活動の配列には、季節、行事、子どもの様子を反映し、ドキュメンテーションの結果に応じて、柔軟に作り直す。
2. 取り上げたい活動を期ごと、4週ごとに並べる。
3. 保育を実施する。
4. 保育の実施後はドキュメンテーションをとり、4週ごとのカリキュラムに反映する。
5. 活動量の目安
  - ① 一人ひとりの描画10～15枚

- ② 一人のひとりの工作 3～7 点
  - ③ 群れの描画 2～3 点
  - ④ 群れの製作 2～3 点
  - ⑤ 製作のための小さな遊び場（別掲）を置く
6. 製作のための小さな遊び場も、子どもの造形活動の装置である。準備には次のような点に留意する。
- ① 製作のための小さな遊び場は、保育室のいずれかの壁に接していて、その面の一部を保育者の定位置とする。
  - ② 作業台は、クラスの総人数の 3 分の 1 以上の子どもたちが参加できる広さにする。
  - ③ 用具及び素材は、安全に配慮しながらも、できるだけ多様なものを用意する。
  - ④ 製作のヒントとなるような作品や技法を保育者が手作りしたり、子どもと一緒に取り組むことで、子どもに伝える。子どもはそれを伝承する。
  - ⑤ 必要に応じてドキュメンテーションをとる。

（まとめ）

まずは、「しいのみ・くりのみ・さくらんぼの造形カリキュラム」と「みどり・しろ1の造形カリキュラム」を精読して欲しい。その両方にまたがる活動、その両方を考慮した活動が、この時期の子どもたちに必要である。

そのうえで、この時期の子どもたちの特徴として、保育者や仲間と一緒にやりたいということがある。やってもらうのではなく、自分でやりたいのだが、自分だけではできないので一緒にいいという面と、なんでも一緒に楽しいという面があり、保育者の子どもへのアプローチはその両面を考慮しなければならない。加えて、一緒にやりたいから、ひとりでやりたいに移行していく時期でもあるので、その点にも配慮が求められる。

### みどり・しろ2の造形カリキュラム

（象徴機能出現以前）

“先生、きれいってどんなこと？気持ちいいってどんな感じ？”

（作業手順）

1. 「造形カリキュラム編成の基本的な考え方」を参考に、年間に取り上げたい造形活動を抽出する。抽出に際しては活動のバランスに留意すること。

- ① 体験と造形に分けて活動を抽出する。体験はおなじ体験を何度も繰り返す。
- ② 活動はできるだけ保育者との 1 対 1 が望ましいが、「第 4 期 群れの表現を受け止める」の頃には、複数の子どものみで取り組むことも必要となる。
- ③ 体験は、次のような感情の経験を軸に具体的な活動を選ぶ。
  - きれい⇔きたない
  - あかるい⇔くらい
  - あたたかい⇔つめたい

あつい⇔さむい

おもい⇔かるい

- ④ 体験は、次のような素材によって遊ぶことから得る。

水

砂

土

泥

粘土

石

木

葉

花

布

紐

やわらかい紙⇔かたい紙

鉄

プラスチック

- ⑤ 体験は次のような空間で遊ぶことで得る。

明るいところから暗いところへ（その逆）

暖かいところから寒いところへ

広いところから狭いところへ

土の上

草の上

板の上

畳の上

布（布団、毛布を含む）の上

水の中

森の中

安心できる保育室の中

風が肌にあたる場所

- ⑥ 体験には音の経験も含む

人の高い声、低い声、大きい声、小さい声

歌声

打楽器の音

音階のある楽器の音

流水や落水の音

風の声

※子どもの絵筆の動きにあわせて保育者が音を添えること

- ⑦ 造形は描画が中心になるが、用具、素材、テーマに配慮する。

- ⑧ 最終的な4週ごとの活動の配列には、季節、行事、子どもの様子を反映し、ドキュ

メンテーションの結果に応じて、柔軟に作り直す。

⑨ しろ1組には、製作コーナーが用意されてもよい。

2. 取り上げたい活動を期ごとに並べる。

3. 保育を実施する。

4. 実施後は必要があればドキュメンテーションをとり、4週ごとのカリキュラムに反映する。

(まとめ)

この時期の子どもには、驚きや発見とともに、安定や安心が必要である。動と静が繰り返されることで、子どもたちの感情に起伏がもたらされる。子どもとの造形的な体験は、いつもこの両方の雰囲気確保されていなければならない。お腹が空いた、お腹がいっぱいになったの繰り返しが、子どもにマイナスの感情とプラスの感情をもたらすが、それは明と暗、静と動、短調と長調などの対比される感情と呼応している。そのような対比される感情のあいだを、できるだけ大きく揺れることを大切にしたい。

このような観点に立つので、タイトルが“先生、きれいってどんなこと？気持ちいいってどんな感じ？”とされている。